



みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月の
ひと

地域交流を再び 新浜女子会のお世話役

年代関係なく寄り合える場所から
日常の繋がりが広がることに期待

岡田地区新浜では自宅を修繕や新築して地域に戻る方が徐々に増え、約五十世帯が生活しています。「自宅の再建」というひとつの目標に邁進してきた皆さんは、「家が建てばひと安心できる」と思ったものの、地域が復興する途中では近隣同士のお茶飲みもままならず、家に閉じこもりがちになりました。「何か集まる機会がほしい」と住民が町内会へ相談して間もなく、昨年八月から月一回の「新浜町内女子会」が行なわれるようになりました。町内会役員の声かけで始まりましたが、現在は西組の村主夏江さん(写真右)、北組の村哲子さん(写真中央)、北組の平山富子さん(写真左)がお世話役となり、リースづくりや生け花など、皆さんの希望する活動をしています。

「震災前は山の神講など女性同士の行事が盛んで、今は女子会がそれに代わります。さまざまに年代の方が交わるから楽しい」と、繋がりの必要性を再認識したことに加え、「ここに住む皆で一緒にまちをつくっていかなくや」と、一歩踏み出すことの大切さも感じています。

女子会から日常の繋がりに広がる芽が膨らんできています。

2014
3月

西原



大和田哲男会長

いつか、分散会を大きくやりたい

震災後の2011年5月から、情報を伝えようと町内会として開いてきた会合を今も毎月続けており、離れて生活する皆さんの良い情報交換の場になっています。地区の女性たちが意欲的に発行する西原新聞も情報伝達に役立っています。町内会行事の花見、芋煮会は鶴巻の仮設住宅と共に催しています。今後は中野小学校の閉校式と併せて中野4町内会で仲良く分散するのが良いんじゃないかという声もあります。その際、町内の皆さんから要望のある分散会は大きくやりたいですね。ともかくにも皆さん健康で。

蒲生



鈴木忠支会長

皆さんの寄り合う頻度を増やしたい

今年は皆さんの行き先が決まる年です。どんどん具体的な計画を進めて頂きたいと思えます。いずれ分散する町内会ですが、借り上げ民間賃貸住宅やプレハブ仮設住宅などに住む住民の皆さんの繋がりが保てるよう、過去に2度開いた町内のお茶会の頻度を増やしたいという思いがあります。今年の3月9日には、中野4町内会として簡素な慰霊塔参りを企画しています。皆が元気で生活するためにも、顔見知り同士が声を掛け合うきっかけづくりとしたいです。特に犠牲者の多かった蒲生町内会として、続けていかななくてはならないですね。

和田



高橋實会長

故郷の仲間、皆で幸せになりたい

借り上げ民間賃貸住宅で暮らす住民が大半を占め、震災以降は独自の催しを行っていません。何かしなきゃいけないとは思っています。役員会は毎月、住民全体会は3ヶ月に1度開催し、外部からの支援物資は町内の協力者のおかげで住民皆さんに分配されています。今後は町内会費の残りを有効、公平に使うべく、神社や慰霊塔の整備費用として寄贈する方向です。歴史ある和田新田の仲間とは何十年と故郷とともに過ごしたから、皆で幸せになりたいです。そして、いつか皆さんと分散会を大々的にやりたいね。

新浜



平山新悦会長

新浜を何とか震災前の姿に戻したい

復興が進み、いかに多くの住民が戻ってくるか、それが我々にとって一番の課題だと思います。先祖が代々築き上げてきた土地や文化を自分たちの代で終わらせてしまうことだけは避けたいし、住民の皆さんにも同じ気持ちを持っていただけたら必ず良い方向に進むと思います。まだ半分以上の世帯が戻ってきていない状況ですが、この町を何とか震災前のような姿に戻したい。そのためにも津波避難タワーなどの施設によって安心して暮らせる地域の構築、そして住みやすい環境を育てていくことが我々に与えられた使命だと考えます。

港



佐藤武夫会長

これからも続けていきたい親睦会

離散した住民の親睦を図るため、事務局を置く高砂の仮設住宅と協力し合い、花見や芋煮会の催しを行っています。手芸教室には、離れて暮らす女性たちも集まります。催し案内は郵送ではなく、各班長から皆さんへ口頭で伝えることで意思疎通が図られている面がありますよね。今後は田子方面に移る方が割と多いのですが、やがて町内会が解散したとしても花見などを開いて親睦を続け、皆さんの復興を支えていければと思います。新たな土地でも声を掛け合って、昔からの大事な繋がりを保ちたいですね。

南蒲生



二瓶誠治会長

皆さんに参加協力いただき、うるおいのある町づくりを

現在の世帯数は約180です。被災された方の状況は三者三様ですから、再建に向けては、お互いの境遇を労わり合うように皆が努めています。安心安全な生活環境が重要なため、津波避難タワーなどの早期の完成を今後も行政に強く要望していきます。また、既に営業している農業法人の誘致により地元から雇用が創出され、町内から10名を超す方が勤めているのを好例とし、広く企業誘致を考えていきます。新しい居久根の考え方を取り入れて、花や緑を増やすことで風や砂塵防止にも工夫し、うるおいのあるまちづくりを目指します。

町内会長から皆さんへ

震災後、離散して生活する住民の結束をいかに維持するか、情報を届けるか、苦心してきた沿岸部の各町内会。それぞれ、復興を目指してきたこれまで、そして今後について各町内会長から住民の皆さんに向けてコメントを頂きました。

堀切



鈴木省三郎会長

町内を笑顔で楽しく盛り上げていきたい

震災から3年が経過しましたが、未だに仮設住宅での生活を余儀なくされている方々もいます。ですから、何とか1日も早く元通りの生活に戻れるように応援したいですね。私は町内の理想として「明るく、仲良く、元気良く」という言葉に「楽しく」をプラスしています。そんな感じで、この地域を皆と一緒に笑顔で盛り上げていくことができればいいと思います。

荻袋



黒澤親雄会長

日頃から話し合い、助け合える町内を目指して

震災の教訓として、災害発生時に安全に避難するためには常日頃から近所同士でコミュニケーションを構築していくことが大事だと痛感しました。まず自分が助かる、そうすることによって隣の人、体の不自由な人を助けることができる。災害発生時の対処法などを周囲の人と日々話し合える環境をつくるのがコミュニケーションの形成に繋がるのだと思います。

港南



遠藤幸男会長

平和の「和」と、繋がりの「輪」

岡田地区で最も多い434世帯、全体の約48%を占めています。約20年前に造成されたこの地域は、さまざまな所からの移転者であるため課題もあります。町内会として今後は横の繋がりを強化し、近隣同士の交流を盛んにしたいと思います。そうすることで万が一の災害時に、「災害弱者」と言われる、高齢者やお体の弱い方々をいち早く避難させることができます。

下岡田



佐藤胞男会長

横の繋がりと地域の連携を大事にしたい

体の不自由な高齢者、共働きによる両親不在時間の多い子どもの数など、各家庭の状況を把握して緊急時に対処できるよう町内会で今後も話し合っていくつもりです。いつでも周りの人に声がけできる「横の繋がりを」大切に三浦明前会長の考えを継承していきたいです。また、地域の一体化を目指して3町内会(下岡田・荻袋・堀切)の連携もさらに充実させたいですね。

上岡田



長田哲夫会長

地域に住む方の幸せと、共に活動できる喜びを

町内には「町おこしの会」があり、地域の行事が行なわれています。町内会として特に書面でお知らせすべき事柄がある時には、不定期で広報紙を発行し、住民の方に情報の漏れがないように努めています。非常に当たり前のことかもしれませんが、ここに住む方が幸せになって、皆と一緒に活動していけるまちになることを願っています。

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

●26日(日) 南蒲生町内会 津波避難訓練
(岡田小学校・岡田会館)



町内5カ所に設置された津波情報伝達システムの訓練放送が朝9時に鳴り響くと、約140人が避難指定場所の岡田小学校体育館に避難しました。その後、再集合地の岡田会館では要援護者搬送の訓練指導、非常食の炊き出しも行われました。

●27日(月) 中野小学校 餅つきと蒲生地区見学
(仙台港背後地6号仮設住宅&日和山周辺)

子どもたちの校外学習の一環として、4～6年生が午前中に市内百貨店で伝統工芸展を見学後、午後から4年生は仙台港背後地6号公園仮設住宅で餅つきを行いました。仮設住宅の皆さんと一緒に美味しいお餅を食べながら、子どもたちはふれあいの大切さを感じていました。一方、5～6年生は蒲生地区を見学。久しぶりに中野小学校校舎跡地から日



和山を訪れた子どもたちは満面の笑顔。蒲生干潟で子どもたちなりにさまざまな思いを巡らせていました。

わたしの近況報告

第20回

このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅などにお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



伊藤さんご一家(中野・蒲生)
(左から)新一郎さん、喜栄子さん、なごみちゃん、竹川美賀子さん、良夫さん

商売をしながら眺めてきた蒲生

中野小学校PTA会長や保護司などを務め、教育に関心があったことから、30年前に白鳥地区に幼稚園を設立した蒲生出身の伊藤新一郎さん。蒲生で営んでいた酒屋は創業117年、自身で3代目でした。蒲生に軒を連ねていたさまざまな商

店が店閉まいしていく中、伊藤さん一家は震災のあった日まで商売を続けていました。

震災後は妻の喜栄子さんとともに、白鳥に住む長女的美賀子さん宅に半年、高砂向田のアパートで2年間生活した後、幼稚園に隣接する敷地を購入して家を建て、昨年11月から暮らし始めています。

皆さんが落ち着くことを願って

酒屋ではお客さんとのやり取りがあり地域と繋がっていましたが、今は馴染みの方々と会いづらくなったことが寂しいと語る新一郎さん。故郷の方々への配慮から、「まだ家を建てられない皆さんに済まない気持ちもある」と胸の内を明かします。さらに、中野小学校の廃校について同窓

会長という立場から、「無念だ」と悔しさを滲ませます。今後、区画整理事業で蒲生がどう変わるのか関心を持って見守っていく考えです。その一方、新一郎さんはこの春から幼稚園保護者の要望を受けて、新たに敷地内で保育園を併設します。震災後に半減した園児は今も増えずにいますが、少しにぎやかになりそうです。

「親戚家族がここに集まるのが今は楽しみ」と話す喜栄さんは、長らく地域の仲間17.8人とお茶会「若草会」を定期的に開いていました。仲間が離れ離れて暮らす今は、開催出来ていません。そういったことから、「たまに買い物なんかで誰かに会うと話し込んだらいいよね」と話します。

「早く蒲生の皆さんの生活が落ち着くことを願っています」と気遣う夫妻です。

読者から
ひびく

●六歳の頃から中峯泰雄師範に空手を習っています。小学校三年に進級する今年は、黒帯に挑戦します。いろんなことがあるけれど、空手をやり続けていることが自分を強くしてくれます。
鈴木琉翠くん

●私たちは夫婦二人で仮設住宅に住んでいるけど、息子夫婦と孫たちは福田町にある借り上げ民間賃貸住宅に住んでいます。三人の孫もすっかり大きくなって、一番上の女の子は、今年高校を卒業して社会人になるんです。来年、南蒲生・雑子袋への移転が決まったので、息子たちを呼んで昔と同じように七人一緒に生活をしてみたいですね。
後藤節子さん

●近所の堀でシラサギを眺めていたところです。借り上げ民間賃貸住宅で妻が体調を崩し、和田に戻ったところ落ちてきました。息子は震災後に岡田へ移り、孫には子どもが産まれました。お互い甘えずに生活しており、この先は田子西へ移る予定です。
渡邊汎さん

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体で話し合われている内容についてお知らせします。

まちの語り場

南蒲生復興部

個々の生活再建と復興を迅速に進めるため、南蒲生独自の復興まちづくりを進めています。

一月二十四日(金)定例会議

内容

- 南蒲生町内会における再建状況の報告
- 二〇一四年度復興まちづくり概要について

当日の様子

町内会における再建状況について、昨年十二月三十一日現在、二百二十世帯のうち、現地再建(リフォーム等含む)は百七十四世帯で、他の地域へ移転されたままの方は四十六世帯であることが報告されました。

また、「新しい田舎」を目指すまちづくり基本計画の二〇一四年度復興まちづくり概要として、避難施設・道路の提案、現地再建状況マップ作成、みんなの居久根プロジェクト、新潟県中越地震の被災地・中越地区の視察の検討なども報告されました。



問い合わせ先
代表 芳賀正 080-1663-7382
定例会議 毎月第3木曜日
合同役員会 毎月最終日曜日
岡田会館

新浜町内会復興部

安全安心を基本方針に、新浜の復興再建に重点を置いたまちづくりを目指しています。

二月二日(日)集会所検討部会

内容

- 区内他地域の集会所施設見学
- 新設集会所の間取り案を各自発表

当日の様子

宮城野区内の他地域に近年新設された二集会所施設を見学し、地域実情に沿って建築する際の工夫点や費用について、直接お話を伺いました。その後は新浜に戻り、各自が実寸面積に基づいた新設集会所の間取り案を考え、発表しました。集会所の広さや収納場所、玄関の向きなどについて意見を出し合い、合わせて塩害を考慮した壁材、引き戸の採用など材質や設備についても検討しました。意見交換の結果、今回見学した施設の間取りを基に原案を作成し、基本プランをまとめることになりました。



問い合わせ先
代表 遠藤芳広 090-2020-4002
会合は随時開催
新浜仮設集会所

中野小学校区復興対策委員会

中野地区四町内会(港・蒲生・西原・和田)が「丸」となり、復興に向けた活動を行っています。

二月二日(日)定例会議

内容

- 復興事業局から説明と報告
- 三月九日(日)実施の合同慰霊祭について

当日の様子

防災集団移転促進事業の個別相談会会期中に行われた建築セミナーの配布資料をもとに、復興事業局から住宅再建に関する説明がありました。前回のセミナー参加者からの要望でまとめた「補助金・支援制度」や、一部条件が緩和された「住まいの復興給付金制度」、日本FP協会宮城支部が作成した生活設計「移転モデルプラン」などの説明に続き、質疑応答がありました。



問い合わせ先
委員長 高橋実 022-258-3068
定例会議
毎月第1日曜日16:00～
高砂市民センター2階会議室

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください

東日本大震災から丸三年。今、さまざまなかたちで支援が続いている方々がいまいます。支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。被災地で取材を続ける情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

「あらなんだい、髪切ったの！」
「さっぱりしたでしょ、あはははは（笑）」。宮城野区の仙台港背後地六号公園仮設住宅集会所に設けられた臨時の施療室で、弾んだ会話が交わされています。毎月第二、第四木曜日に開かれているカイロプラクティックの施療ボランティア。単身で活動している療術師飯田真志さんは、利用する住民の方々とすっきり気心が知れた間柄です。
人体が持つ自然治癒力を活性化して健康を取り戻すという「手技療



ボランティアに話しかける飯田さん

法」。飯田さんは利用者の腰や肩、股関節など体の部位に優しく手を当て、加齢や生活習慣などでずれしてしまった骨の位置を正常な状態に戻します。実際に見ていると、施療前は明らかにずれていた左右の骨盤の位置が、しばらく手を当てただけで修正されました。「力をかけることは全くありません。じっと、こうやってしかるべき場所にそっと手を当て続けるだけなんです」と飯田さん。

一月下旬。外から明るい日差しが差し込む午後の集会所には、一人、二人と利用者が訪れ、飯田さんの施療を心待ちにしている様子でした。二〇一三年四月から続けられている施療ボランティアは、女性を中心に二十歳代から八十歳代の幅広い年齢層の住民が利用しています。こちらの仮設住宅で活動する以前、七カ月にわたって東松島市内の仮設住宅でボ

ランティアをしていた飯田さんは、これまでに四百人を超す方のケアをしてきました。



体の部位にそっと手を当てる施療

青葉区落合の自宅で「真心堂療術院」を営む飯田さんは、元銀行員です。過労で体調を崩してしまい、三十八年間勤めた職場を定年前に去りました。闘病生活の末、恩師の生き方と自分の体験を重ね合わせ、「病の苦しさを身を持って経験した私に、今度は逆に病に悩む方々の助けになれば」と一念発起。五十年代半ばにして療術師を目指し、資格を取得しました。現在、宮城県療術師協会

の理事長、事務局長を務めています。「苦しんだ自分が、身につけた技術で今苦しんでいる人たちを助けたい」。療術師を志した気持ちと、被災地でボランティアを始めた気持ちとは同じです。
「今後は要望があれば、ほかの仮設住宅などでもボランティアをしていきたい。体の不調や悩みなどがある方々はまずは連絡いただければ対応したいです」と飯田さん。「皆さんから『おかげで体が楽になった』などという言葉をいただく、続けてきて良かったなあとつくづく思うんですよ」。

施療ボランティア

施療日：毎月第2・第4木曜日
時間：9:30～17:00(施療時間は一人30分)
会場：仙台港背後地6号公園仮設住宅集会所
利用無料(施療を受ける方は、とっくりセーター、ジーンズはご遠慮ください)
連絡先：090-6854-0516(飯田)
※他の場所での施療を希望する方もご連絡ください

取材：齋藤大輝@石巻専修大学
情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。
http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/ より(地域SNS「ふらっと」ブログ)

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

中野小学校区復興対策委員会からのお知らせ

東日本大震災中野学区合同慰霊祭を行います。
対象 港・蒲生・西原・和田各町内会の方など
日時 3月9日(日)10:00～12:00 ご都合のよい時間にお参りください
場所 中野小学校駐車場跡地
※3月11日(火)19:00～同会場でキャンドル鎮魂祭を行ないますので、あわせてご参加ください

ふるさと中野・岡田写真展

震災前に撮影された中野・岡田の風景写真を展示します。写真を見ながら、記憶に残る暮らしの様子や思い出話をお聞かせください。入場無料。
対象 どなたでも入場できます
日時 開催中(3月9日(土)まで)9:00～21:00
場所 宮城野区文化センター
問 022-291-2111(内線6137) 宮城野区まちづくり推進課、022-258-1010 高砂市民センター

津波で流出した写真などをお返しします

東日本大震災の津波被害地域(宮城野区・若林区)でのがれき処理作業中に回収された写真、アルバム、賞状など思い出の品を、1人でも多くの方の手にお返しできるように展示し、所有者やご家族へお渡しします。
対象 どなたでも入場できます
日時 3月7日(金)～16日(日)10:00～17:00
場所 出花体育館(宮城野区出花1-13-7)
主催 仙台市、震災復興ボランティア団体 おもいでかえる
問 022-214-3109 仙台市消防局減災推進課

大震災と詩歌～被災圏からの発信 Part3

詩・俳句・短歌それぞれの表現を通して震災について考える集いです。第1部ではゲストの講話、第2部では「大震災と詩歌」をテーマに鼎談を行います。入場無料、要申込。
対象 定員180名 定員になり次第受付終了
日時 3月21日(金・祝)13:00～15:30
場所 仙台文学館(青葉区北根2-7-1)
ゲスト 第1部 照井翠(俳人)、梶原さい子(歌人)、第2部 高野ムツオ(俳人)、和合亮一(詩人)、佐藤通雅(歌人)
申込方法 電話、FAX(氏名、住所、電話番号記入)
申・問 022-271-3020、FAX022-271-3044 仙台文学館

タクシーを利用して復興公営住宅整備予定地やその周辺を確認してみませんか

宮城県タクシー協会仙台地区総支部では、仙台市復興公営住宅入居希望者への支援事業として、仙台市内の自宅から復興公営住宅整備予定地(周辺確認含む)の往復を特別割引料金(3割引)で案内します。
対象 仙台市の復興公営住宅整備予定地の現地確認を希望する方
日時 送迎時間は10:00～17:00 ※前日まで要予約
料金 特別割引料金(3割引)
予約 仙台市内のタクシー会社36社で予約が可能です。詳しくはインターネットからご確認ください
問 022-256-0356 宮城県タクシー協会仙台地区総支部
http://sentakyo.org

健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)
対象 どなたでも参加できます
時・所 各仮設住宅集会所
▼高砂1丁目公園 3月24日(月)10:00～
▼福田町南1丁目公園 3月17日(月)10:00～
▼岡田西町公園 3月11日(火)13:30～、3月20日(木)10:00～
▼港南西公園 3月7日(金)10:00～
▼仙台港背後地6号公園 3月19日(水)10:00～
▼扇町1丁目公園 3月14日(金)13:30～
▼扇町4丁目公園 3月12日(水)10:00～
問 022-291-2111(内線6782、6784) 宮城野区家庭健康課健康増進係

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
みんなで作って食べよう	泉区のみなし仮設にお住まいの方	3月7日(金)	10:00～13:00	黒松市民センター	みんなでお料理しながら楽しい時間を過ごしましょう	要(電話)	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
なつかしの音楽・名曲クラシック	仙台市内のみなし仮設にお住まいの方	3月8日(土)	10:00～12:00	仙台市中央市民センター	みんなで懐かしい音楽を鑑賞しましょう	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
ほのほの中央サロン	太白区内のみなし仮設にお住まいの方	3月8日(土)	10:00～12:00	太白区中央市民センター	わかさ生活スタッフによる「目の知識と目の体操」	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
木町サロン	木町地区にお住まいの方	3月15日(土)	13:00～15:00	木町通市民センター	わかさ生活スタッフによる「目の知識と目の体操」	要(電話)	支えあいセンター あおば 022-217-7234
みやふくde和むちゃ	宮城県沿岸部・福島県から移転し若林区にお住まいの方	3月27日(木)	10:00～12:00	若林区中央市民センター別棟	レクリエーションダンスでリフレッシュ!	要(電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

徳照寺 住職

佐藤 和丸

幼児は、昨日迄できなかったことが今日では
さるやうになります。私のやうな高齢者も
もなればこの逆で、今日やっていることが明日に
はやれなくなる可能性が高いつてわけです。

人の名前がなかなか憶ひ出せなくなり、
毛と云ふ毛はすべて白くなりやがて抜け落ちて、
歯茎は痩せる一方なのに肉体は肥え、皮膚はた
るみ皺が寄り、乾燥して痒くなり、異性への関
心は燃える一方なのに性機能は衰へ(嘘!)目は
かすみ聴力も落ち、排尿時間も途切れて長くな
り、公衆便所では後続の人に遠慮して大使用に
入るしまつ。人との会話では同じことを幾度も
繰り返して、食事の度に多量の薬を服用し、自
分にとって大切な品物など家族にさへ何の意味
もないのを知りつつも廃棄処分できずに家の到
る処に山積みにしたまんな。

でも、これってすべて人生初めてのことが毎
日新たに勃発するわけで、考へてみれば初体験
の喜びにならなくちゃ勿体無いことですよ。

私にはもうひとつの喜びがあります。それは
仏陀の教への了解が加齢と共に深くなつて行く
と云ふことです。死ぬ迄この勉強ができるってこ
とです。さあ、ご一緒に学び合ひませぬか。

佐藤和丸(さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2	3	4	5	6
7			8		9
			10	11	
12		13			14
		15	16		17
18	19			20	
21					

タテのカギ

- ①仙台市内の桜の3大名所といえば、榴岡公園、三神峯公園と〇〇公園
- ②大河原町から柴田町へ約8 kmにわたる桜並木は、一目〇〇〇〇桜
- ③石や岩の多い波打ち際のこと
- ④3月21～23日、登米市のとよま観光物産センターで、「春のはつと〇〇〇村」が開催されます
- ⑤主語、述語などを含む書き言葉
- ⑥刺身に添えられる野菜や海草など
- ⑦辞表の内容の定番といえば、「一身上の〇〇〇により…」
- ⑧〇〇〇〇湾に浮かぶ浦戸諸島の朴島は、春になると一面に菜の花が咲くことで知られます
- ⑨俗に、人生は山あり〇〇あり
- ⑩あざらは、メヌケなどのあらと〇〇〇〇の古漬けを酒粕で煮る郷土料理
- ⑪ヨーロッパで広く使われている通貨
- ⑫絵画などを入れて飾るための枠
- ⑬文化やスポーツなどの面で仙台市に貢献した個人、団体に贈られる「賛辞の〇〇」。昨年は楽天イーグルスに贈られ話題に

ヨコのカギ

- ①俗に〇〇〇タレントといわれる人は、親もタレント
- ②短い4脚の食卓といえば、〇〇〇台
- ③この春に学校を卒業した人
- ④仙台市の焼き鳥店の店主が、戦後間もなく提供したのが「牛〇〇焼き」の始まりらしい
- ⑤楽天イーグルスにドラフト1位で入団、新エースの期待がかかる〇〇〇裕樹投手
- ⑥世界最大のエイの呼び名。頭に耳のような一對のヒレがあるのが特徴
- ⑦春、学校では、まず〇〇〇〇〇〇式を迎えます。小中高で、新品のランドセル、制服などが初々しい
- ⑧食べ慣れていて味の良しあしが分かる人ほど、〇〇が肥えています
- ⑨チームのレベルはさまざま。空き地でも市民球場でも〇〇野球は盛んです
- ⑩超高層ビルのこと。仙台市でも、仙台トラストタワーなどいくつかは当てるでしょう

前回のこたえ

A ユ B タ C ン D ポ

でした。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20



蒲生干潟西側に将来出来る防潮堤。地元有志や学識者、若い発想が加わり素敵なもの立案されています。将来の環境に配慮された、皆が納得できるものになると良いですね。(おおが)

未曾有の大震災から丸3年。爪痕が残ったままの場所も未だに点在しますが、震災前の姿に少しでも近づけていくことが「復興」の原点。官民挙げ、もう一踏ん張り!(ささき)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL: 022-390-5755
FAX: 022-390-5756 e-mail: kawara@mmmm.or.jp